

事業所名

放課後等デイサービスティンカーベル

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		①楽しい環境造り ②遊びを通して学ぶ場所 ③褒めて伸ばす							
支援方針		子ども達一人一人が将来に向けて、自分で出来る事を1つでも多く習得し社会性を学べるように支援していく。							
営業時間		平日	14 時	0 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無等	ありなし	自主通所可
		休日	10 時	0 分から	16 時	0 分まで			
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	★基本的生活習慣面のスキルを身に着けることへの支援。 （身辺処理で自分の荷物の意識を持たせ、整容に向けていく。食事の自立へ向け支援、排泄の自立へ向けた支援、衣類の着脱の自立へ向けた支援） ★普段の生活動作ができるようにどの部分を動かすのか等、運動感覚と密接に繋げていく。 ＜基本的に毎日の通所時、個別に個々の状況に合わせて支援を実施＞							
	運動・感覚	★運動：自分で使いたいように動かせる体づくり（公園等での運動、遊具を使った運動、また室内での運動。） ★手指運動操作：体を支える役割の手を実感（手押し車、工作活動）、手指操作の ★感覚遊び：身体感覚を高める（前庭感覚：揺れやバランス、固有感覚：身体のどこに力を入れているのか感じ取る、触覚、温冷感覚） ＜運動感覚の主活動の中で実施。＞							
	認知・行動	★認知の特性に合わせた対応 （対象や外部環境の認知と適切な行動への支援。感覚の受け入れ幅を広げる→識別・認知へ） ★認知の概念形成（物の機能や属性、大小・形・色弁別・数・重さ・反対類推等） ＜個別指導や教材使用やグループ活動のプログラムで実施。＞							
	言語 コミュニケーション	★言語理解へむけていく（わかる言葉を蓄えることへの支援：行動と言葉、活動とことばを繋げる） ★意思決定支援（安心して表現できる環境→表現を増やす：活性化、要求表示への支援、意思表明、選好の経験を積む） ★遊びを通してコミュニケーションの構築（児童だけでなく、職員も関わりを持ちコミュニケーション能力の向上に。） ★挨拶、コミュニケーションのルール（距離、相手に眼差しを向ける） ＜基本的に毎日の通所時実施。＞							
	人間関係 社会性	★発達に合わせて一対一の関係のアタッチメント形成から、共同注視へ、三項関係を築く、他児と一緒に遊ぶ平行遊び（もの、遊具）→連合遊び→協同遊びへの発展へ導く ★集団参加への支援。（ルールを守る、順番、聞く、待つ）、場面に合わせた行動を練習する。対人面でのソーシャルスキルの形成へ向けた支援（やりとりや関わり方） ★集団遊びや 日々の朝の会・帰りの会の集会の参加の仕方を学ぶ。 ＜基本的に毎日の通所時実施。＞							
家族支援		児童の特性や関係性、関わり方の面談（半年に一度実施。発達の課題の共有） 日々の連絡帳にて相談、LINEや電話での相談支援実施。				移行支援		移行に向けて移行先の状況把握。（支援内容の共有で柔軟に移行できるように支援）	
地域支援・地域連携		隣接の放課後等デイサービスとの交流。同一法人の施設とも交流を図る。 地域のイベントや行事等の交流でインクルージョンに向けている				職員の質の向上		全職員に定期的に研修、外部研修、勉強会、虐待防止委員会、その他会議等を実施して障害特性の理解や専門性を高め、対人援助技術を学びあうように努めている。	
主な行事等		入学・進級祝い、外出活動（買い物体験、外食体験、映画体験、カラオケ体験、ハイキング活動など）、ハロウィン、運動会、クリスマス会、忘年会 防災訓練（基本的に3.9月実施。時期のずれあり。） 保護者面談（年に1～2回実施）							